

☆第42回 全国中学生人権作文コンテスト愛媛県大会 愛媛オレンジバイキングス賞（優秀賞）



バイキングス選手のサイン入りTシャツを手に

大洲東中学校 1年（受賞時）
アジュワン デヴィス メイ さん

父親がケニア人、母親が日本人であるメイさんは、テレビ番組をきっかけに知った「マイクロアグレッション」という言葉を題材に、全国中学人権作文コンテストの県大会で優秀賞となる愛媛オレンジバイキングス賞を受賞しました。

マイクロアグレッション（小さな攻撃性）とは無意識の差別や偏見により相手を傷つけてしまう行為で、メイさん自身も「黒人だから足が速そう」といった言葉に戸惑いを覚えたり、「自分は黒人なので」という意識が働いて、周囲の目が気になってしまうことがあったそうです。そんな中、同じテレビ番組に出演していたアフリカにルーツを持つ漫画家の星野ルネさんの言葉や漫画に共感し、心を軽くすることができたそうです。

メイさんは作文の中で「お互いが完璧に理解し合うことは難しいが、お互いが近づき合い、互いの気持ちを通い合わせる努力を続けていくことが大切」と呼びかけています。

昨年12月12日(火)、大洲東中学校でのメイさんの表彰式に合わせて、人権教室とスポーツ教室を組み合わせた「人権バスケットボール教室」が、愛媛オレンジバイキングスの選手を招いて開催されました。



HighSchool NOW

Vol.85 大洲高等学校肱川分校

～市内5校の高校生によるリレーエッセイ～

みなさんこんにちは！大洲高校肱川分校3年の石原陽菜^{ひな}です。

肱川分校では毎週水曜日、総合的な探究の時間を利用して、茶道班、HIJIKAWA班、音楽班の三つのグループに分かれて活動しています。私が所属しているHIJIKAWA班では、秋の茶会の和菓子を考案・作製したり、フォトコンテストの写真を撮ったり、幅広く活動しています。

1月末に、それぞれの班が1年間活動してきた様子を発表する会がありました。どの班も毎回楽しく活動してきたことがよく分かる発表会となりました。



HIJIKAWA班



音楽班①



音楽班②



茶道班

一回は大洲農業高等学校からです。一

きらめき
ニュース
シリーズ
お知らせ
情報ひろば
図書館
未来を拓く
保健センター
相談・救急

武田斐三郎を知っていますか？

大洲市出身で北海道函館市のシンボルである五稜郭^{ごりょうかく}を設計した武田斐三郎^{あやさぶろう}について、その功績を地元にも広く知ってもらおうと大洲・喜多経済研究会の篠崎守良^{もりよし}代表幹事から生誕地を示すプレートが市に贈られることとなり、1月22日(月)に函館市の藤井寿夫^{ひさお}教育長も同席して、市役所で贈呈式を行いました。篠崎さんは「出身地ながらその功績はあまり知られていない。その一助になれば」とし、藤井教育長は「これを機に大洲市と函館市の交流が盛んになって欲しい」と話しました。



篠崎守良代表幹事（中央）と藤井寿夫教育長（右）

大洲の「ええモン」を全国へ

1月24日(水)、市内で製造または加工される商品や収穫される農林水産物のうち「大洲ええモンセレクション」として認定されたものを県内外で流通させようと、東京や大阪などからバイヤーを招いての個別商談会を市役所で行いました。

参加した市内10社の担当者がそれぞれ商品の特長の説明や試食・試飲などで大洲の「ええモン」を売り込み、現在も継続してバイヤーとの商談を行っています。



文化財を活用した冬の観光コンテンツ体験会

海外からの旅行客に大洲で宿泊してもらうことを目的として、台湾の旅行関係者や県内観光事業者を招いたモニターツアーが、1月26日(金)、日本航空(株)の主催で開催されました。

観光列車「伊予灘ものがたり」で大洲を訪れた一行は大洲城^{こつらんやぐら}へ向かい、太鼓とほら貝の音が響く中、入城お成りや高欄櫓^{たかねぐら}でのおもてなしなどを体験しました。今後、専門家の意見を参考にした海外向け旅行商品の造成や販売が期待されます。



大洲と学びの歴史を知る講演会

1月27日(土)、久米公民館で古学堂復活プロジェクト事業講演会が開催されました。伊予最古の図書館といわれる古学堂と関わりの深い先人である矢野玄道^{はるみち}の生誕200年を記念して「学びの交流と幕末維新の政治運動―矢野玄道とその周辺から―」と題した講演が開かれ、訪れた約70人の地域住民や歴史愛好家たちは、国立歴史民俗博物館の天野真志^{まさし}准教授の話に真剣に耳を傾けていました。



きりめき

ニュース

シリーズ

お知らせ

情報ひろば

図書館

未来を拓く

保健センター

相談・救急



私たちの健康は私たちの手で

食を通じて地域の健康づくり活動を進めている大洲市食生活改善推進協議会による「令和5年度健康食フェア」が2月2日(金)に総合福祉センターで開催されました。今回は「大洲産を使った健康食～健康寿命をのばそう、地産地消に努めよう～」をテーマに市内の各支部が今年度に研修などで学んだ知識を基にした献立を集め、バイキングを実施。参加者のみなさんは、大洲産の食材をふんだんに使ったレシピを確認しながら、そのおいしさに舌鼓を打っていました。



人権擁護委員として活躍

昨年12月末をもって人権擁護委員を退任した中野^{しんいち}伸一さんに対し法務大臣から感謝状が贈られ、2月2日(金)に松山地方法務局大洲支局で、同支局の福岡支局長から伝達されました。

中野さんは平成30年1月から2期6年にわたり、菅田・大川地区の人権擁護委員として相談者の心に寄り添ったきめ細かな支援や地域の人権課題の解決に尽力しました。



人権が尊重されるまちづくりを

市内各地で実践された人権教育の成果を互いに学び合うことを目的に、令和5年度大洲市人権・同和教育研究大会を2月9日(金)、国立大洲青少年交流の家で開催しました。

開会行事の後、各分科会に分かれて実践報告とそれに対する研究協議を実施し、参加者からはさまざまな意見や質問が飛び交いました。

午後からは日本LGBT協会代表理事の清水^{ひろと}展人さんの講演を行い、性同一性障害と向き合った自身の経験に基づいた講話に多くの人が聞き入っていました。



高校生が市役所の仕事を体験

2月7日(水)～9日(金)の3日間、大洲高校商業科の2年生4人が市役所でインターンシップを行い、3日目の2月9日には、広報広聴係に同行して大洲市人権・同和教育研究大会の取材を体験しました。

一眼カメラでの撮影や参加者へのインタビューなど初めての経験に戸惑いながらも、しっかりと取材を行っていました。市役所に戻って「広報おおず」の記事づくりを体験し、生徒の一人は「難しかったけど、出来上がった記事をほめてもらえてうれしかった」と笑顔を見せてくれました。

祇園まつりが開催されました

旧暦の正月にあたる2月10日(土)から2月13日(火)の4日間、八多喜地区の祇園神社で「祇園まつり」が開催されました。一年の無病息災を願うこのまつりは、新型コロナウイルスの影響で4年ぶりの開催となり、期間中は地元商工会などによって縁起物やうどんの販売が行われ、多くの人でにぎわいました。最終日である13日には藤縄神楽の奉納と餅まきがあり、栗津小学校の児童が見学を訪れて神楽を体験し、地域文化を学んでいました。



笑って学ぶ男女共同参画

大洲市女性団体連絡協議会が女性の自主的活動や男女共同参画社会づくりの促進を図ろうと毎年開催している「男女共同参画社会づくりセミナー」が2月12日(月・祝)に総合福祉センターで開催されました。今回の講師は弁護士の仲岡しゅんさん。トランスジェンダーとしての実体験と多様性のある男女共同参画について、大阪育ちならではのユーモラスなトークを繰り広げ、会場の参加者は深くうなずき大きな笑い声を上げていました。



若き剣士しのぎが鎧を削る

第36回大洲市長杯争奪スポーツ少年団剣道大会を2月18日(日)に大洲市総合体育館で開催し、市内から集まった小学生剣士たちが熱戦を繰り広げました。高学年、低学年の部に分かれた団体戦と男女それぞれの高学年と低学年の部、男女1・2年生の部での個人戦を行い、剣士たちの気合の入った掛け声が会場内に響き渡っていました。

【団体優勝】

高学年(5～6年)の部 八多喜A
低学年(3～4年)の部 八多喜A



JMATが被災地支援へ出発

令和6年能登半島地震の被災地での医療活動に当たるため、「愛媛県JMAT(日本医師会災害医療チーム)」の一員として2月19日(月)に市立大洲病院から職員が被災地へ向け出発しました。

今回派遣されたのは、有光英治えいじ医師、向井直基なおき・村上誠まこと看護師、大藤美樹よしき事務担当の4人で、主に二次避難者の体調管理などに従事することになります。4人は「被災者が置かれている医療環境は依然として厳しい。被災者に寄り添った活動を心がけたい」と語っていました。





海洋ごみの現実を知ろう

瀬戸内海に存在するプラスチックごみの実態について知ってもらおうと、啓発ビデオの上映会を2月20日(火)に長浜ふれあい会館、翌21日(水)に総合福祉センターで開催しました。

上映されたビデオは瀬戸内海の沿岸に漂着したプラスチックごみを拾い続け、自身を「ごみバカ」と称する岩田功次さん（八幡浜市出身）の活動を追ったもので、参加者からは「こんなに多くのゴミが海岸に堆積していることを知り驚いた。小学生などにもぜひ見てほしい」との声が聞こえました。



棚田保存会10年の歴史

榎谷棚田保存会(戒川地区)が発足し10周年を迎えたことを記念した写真展が、2月23日(金・祝)から25日(日)の3日間にわたってオズメッセで開催されました。農林水産省の「つなぐ棚田遺産」にも選定された榎谷の棚田を保存していくための活動のあゆみや、棚田の四季折々の風景を収めた写真に、訪れた人々はじっと見入っていました。また、併せて「棚田オーナー制度」に長年協力してくれた人への感謝状贈呈式も行われました。



3チームでの合同演奏

日本三大あらしの地が交流を深める

鹿児島県薩摩川内市の「川内川あらし」、兵庫県豊岡市の「円山川あらし」、そして大洲市の「肱川あらし」は日本三大あらしとして知られていますが、その自然現象である「川あらし」と和太鼓を通じて交流を深めようと、「龍・鬼・薩 交流公演in大洲」が2月24日(土)に大洲市民会館で開催されました。

薩摩川内市の「薩摩川内おどり太鼓」、地元大洲の「大洲臥龍太鼓」、松野町の松野鬼城太鼓の3つの和太鼓チームが、それぞれの演奏を披露。迫力ある和太鼓の音に会場は熱気で包まれました。

また、翌日の25日(日)には旧白滝小学校を会場に、三大あらしの各関係者によるイベント「霧のフェスタ」を開催。会場には肱川の鮎で出汁をとった「鮎ラーメン」など地元団体による出店や、肱川あらし発生予報ナビゲーターとして活躍する「アラシガールズ」のライブなどが行われ、多くの人が詰めかけました。



霧のフェスタは多くの人でにぎわいました



関係者による川あらしのシーズンオフ宣言

【サケとインゲンのカレーソテー】



材料（4人分）

サケ	4切れ
塩コショウ	少々
薄力粉	適量
インゲン	80g
ジャガイモ	120g
油	適量
酒	大さじ2
砂糖	大さじ1
しょうゆ	大さじ1
カレー粉	小さじ1
おろしニンニク	適量

A

作り方

- ① サケは一口大のそぎ切りにし、塩コショウをふって薄力粉を薄くまぶす。
- ② インゲンは斜め切り、ジャガイモは一口大に切って、それぞれ塩ゆでする。
- ③ フライパンに油を入れ、中火でサケを焼く。両面焼けたら、②を加えてさっと炒める。
- ④ Aを加えて水分を飛ばすように炒める。

インゲンの栄養

中の豆が未成熟なうちに、さやごと食べる「さやインゲン」は、鮮やかな緑色が料理を引き立たせてくれます。

野菜と豆類の栄養成分を兼ね備えており、糖質や脂質の代謝を助けるビタミンB群が含まれています。



【レシピ提供：健康増進課】

CDO補佐官 鈴木邦和くにかずの 第15回
DXのすゝめ



今回は2025年の大阪・関西万博で話題となっている「空飛ぶクルマ」についてご紹介します。

「空飛ぶクルマ」は、ヘリコプターよりも小型で、電力を使って飛ぶためにCO₂を排出せず、垂直にも水平にも移動できるのが特徴です。加えて、公園やコンビニなど離着陸できる場所が格段に多く、将来的には、タクシー並みの料金で日常的に利用し、通勤や買い物、旅行にかかる時間を大幅に短縮できる可能性を秘めています。

愛媛県内でも、今治市では、「空飛ぶクルマ」の活用方法の検討を進めており、過疎地域や離島地域の交通、救急医療、災害救助、さらには上空から瀬戸内の多島美を眺望することができる新たな観光コンテンツとしても期待されています。

一方で、商用化に向けては主に航空法における制度設計が不可欠であり、また離発着場や充電ステーションの整備も必要になります。今後、新しい技術がどのように地域に貢献できるのか、その課題面も含めて、大洲市としても見守っていきたいですね。

文化財

横野の藤
大洲市指定天然記念物
八坂神社所有



この木は、日本固有種である「ノダフジ」で、西予市に接する横野地区の八坂神社境内にあり、標高は約400mの位置にあります。

ノダフジのつるは、右（時計）回りに巻きつく特徴があり、この木もイロハカエデの大木へ右回りに巻きついて、渾然一体となっています。さらにつるは、樹高18m以上になる周囲のスギの頂部まで巻きついており、スギの樹冠を覆うように広がっています。フジの花序（花をつけた茎の部分）は50cm以上になり、毎年4～5月に多くの花をつけます。

市内のノダフジとしては最大級の規模を誇ることから、重要な樹木といえます。

（昭和40年1月1日指定）